

発掘だより

第28号

2007.2



ちょっと寄ってみませんか？

——三好氏ゆかりの散歩道・板野町編4——

～赤沢信濃守の居城・板西城址～



板野町編最終回の今日は、赤沢信濃守(あかさねしののかみ)の居城だった板西城址です。板野町古城には、今でも「城ノ内」、「城ノ西」などの地名が残っていて、かつてそこにお城があったことがわかります。



板西城址とその周辺

板野町内には、犬伏谷川、松谷川、黒谷川、宮川内谷川など、阿さん山脈に源を持つたくさんの川が流れています。

板野町の平野部では、これらの川からの砂があつたままのところがあつて、ぬま地の間にいくつかの島状の高まりを作っています。

板西城址はそのような島状の高まりの1つの上であり、地名を「古城(ふるしろ)」といいます。



北側の山から見た板西城址

歴史の丘に登ると、板西城址のある古城の集落全体を見ることができます。勝瑞城館や吉野川との位置関係もよくわかりますよ。



板西城址

1町(約120m)四方の大きさがあつたといわれています。くわしい場所はわかっていませんが、「城ノ内」と呼ばれているあたりではないかといわれています。

平安時代の終わりごろ、屋島の合戦に向かう源義経の道案内をして、源氏の勝利にこうけんした近藤六親家(こんどうろくちかえ)によって築かれたといわれています。親家にはあつぎがなかったため、赤沢兵庫頭宗定(ひょうごのかみむねさだ)に城をゆずり、その後赤沢氏の居城となったと伝えられています。



城あとと近くのほこら

戦国時代には、勝瑞城館の西の守りとして重要な位置にありましたが、天正10(1582)年、中富川の合戦で信濃守がうち死にした時、城も落とされました。

現在、城あとの近くには案内板とほこらがあり、昭和30(1965)年3月31日に板野町史せきに指定されています。



信濃守の奥さんのお墓といわれています→

←赤沢信濃守を
まつたほこら

まちの人たちにとって、赤沢信濃守は今でも身近な存在なのかもしれないね。





振りそで地蔵

ふいそで姿のおじょうさん

犬伏にある振りそで地蔵は、赤沢信濃守の娘「カヨ」をくようするために建てられたお地蔵さんです。

天正10(1582)年、中富川の合戦で信濃守が討死にしたとき、幼い姫カヨは母親とともににげました。しかし、にげられないと思った母親は姫をにがして自害し、カヨも土佐方の兵士につかまって殺されました。

命の短かったカヨ姫をあわれに思った村人たちが、振りそで姿のおじょうさんを作ってまつりました。のちに「振りそで地蔵」、「カヨ地蔵」とも呼ばれるようになり、子どもを守るお地蔵さんとして親しまれています。

ただしおじょうさんが建てられたのは江戸時代の中ごろで、ずっと後の時代のことです。



下庄八幡神社

下庄八幡神社

古城から南へ行って、宮川内谷川をわたったところが下庄の集落です。十二人衆の一人、阿部采女正（あべうねめのかみ）のやしきがあったと伝えられているところです。八幡神社にある文けんには、赤沢信濃守とその家臣が信仰していたことや、長宗我部（ちょうそかべ）氏がせめてきたときに焼きはらわれたことなどが記されています。

もう一人の戦国武将 川端越前守



板野町の東部、川端のあたりを治めたのが、川端城主・川端越前守（かわばたえちぜんのかみ）です。

鎌倉時代に富吉庄（とみよしのしょう、今の藍住町富吉のあたり）の地頭という役職についていた漆原（うるしはら）氏が、川端村に住むようになって、川端殿と呼ばれるようになったといわれています。

川端城は、JR阿波川端駅の近くにあったと言われていますが、くわしい場所はわかりません。近くにある諏訪神社は、その昔、川端城主が城の守り神として建てたものだと言われています。



諏訪(すわ)神社

発掘現場ニュース



調査区全体をさつえいしました。同じ方向に並んだみぞの間にたくさんの遺構がありました。



館跡第12次発掘調査は終わりました。たくさんの遺構が見つかり、生活の場としてよく使われていたことがわかりました。何に使われたのか、よくわからない遺構もありますが、どのような生活が行われていたのかを考える資料が得られました。

問い合わせ先

藍住町教育委員会 社会教育課
勝瑞発掘現場事務所

TEL・FAX (088)641-3466

URL : <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

E-mail : syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp



K. Suzuki